

(社)日本鑄造工学会 「生型砂管理技術の再構築」研究部会
第 01 回研究部会議事録

日時 : 2010 年 10 月 15 日(金) 13:30~17:00

場所 : 安保ホール 101 会議室

出席者: 橋本(部会長, 新東工業), 米北(太洋マシナリー), 山村(金森メタル), 村川(三重県科学技術振興センター), 高森(物質・材料研究機構), 田島(広島大), 前田(旭テック), 菊井(JFE 継手), 佐藤(アイメタルテクノロジー), 高橋(福島製鋼), 市岡(ツチヨシ産業), 梶田(土岐可鍛工業), 西原(森川産業), 土本, 鵜田(クニミネ工業), 戸上(浜北工業), 川島(マツバラ), 笠松(ヤマトインテック), 藤塚(日立金属), 伊藤(中央可鍛工業), 安田, 山村(コヤマ), 松本, 足羽(クボタ), 三反, 井上(虹技), 曾根(瓢屋), 永田(大銑産業), 森川(森川鉄工), 五家(アドバイザー: 新東工業), 前田(幹事, 海保大)

以上 31 名(敬称略, 順不同)

議事

1. 新部会長挨拶 橋本部会長
2. 委員自己紹介

3. 【基調報告】生型砂の特性に及ぼす混練条件の影響(01-01)

(株)アイメタルテクノロジー 佐藤委員

生型砂特性のバラツキに及ぼす多くの要因の中から混練工程における水分調整(混練条件)に着目して, 水分 0.25%の回収砂 4kg に対して 110, 120CC の水分を添加したとき, 2 次混練の有無, ねかせ有無等の混練条件を変化させたときの CB 値, 水分率, 通気度, TP 密度, 圧縮強さ, SSI の変化などが報告された. 本試験結果においては, 水の添加時期は混練初期に全量を添加することが望ましく, また”ねかせ”を付加することで生型砂特性が良好になる結果が示された.

4. 部会テーマの展開について(01-02)

委員全員による討議

まず橋本部会長より, サブテーマ「生型砂管理技術の再構築」を選択した理由(資料 No.01-02 の p.1, p.4-8), 3 年間の大まかな活動計画(p.2-3)が示された.

部会長提案は, 前半 1 年半は, 従来通りの各委員からの砂管理の現状・事業トピックス等の発表を実施しつつ, 後半の共同実験に向けて, 共通指標や測定方法等の討議を実施する. つづく 1 年間で, 前半の討議結果を受けて数社で共同実験を実施し, 残り半年間で報告書やレビュー等のまとめを行う計画である. さらに, この共同実験や測定に必要な機器として, DST 型生型砂特性測定装置(p.9-12)が紹介され, これを共通測定機器とする提案がなされた.

委員による討議の結果, 部会長提案に対して特に反対意見はなかったが, 共同実験に関しては有志にてもう少し検討して具体的な内容を詰めることとなった.

5. その他

次回研究部会は, 2011 年 2 月 4 日(金)名古屋(ウインクあいち)にて開催予定

以上